ishinkai［シンカ］

人と人、 医師と医師会をつなげ、 これからも進化し続ける

診療科のご紹介

脳神経内科・総合内科

脳神経内科部長
中川広人
日本内科学会認定医
日本神経学会指導医

総合内科として幅広い症例に対応
早期治療につなぐため、迷わず紹介を

当科はもともと鹿児島大学の医局、旧第３内科出身の医師が担ってきました。循環器や消化器以外の内科全般を診てこられた先生方の後を継がせていただくという思いで、私の専門である脳神経内科を含めて幅広く診ています。現在、総合内科専門医を取るには相当数の症例を診る必要がありますが、当院で研修すれば１年でそろうくらい、患者さんの症状は多様です。

そもそも当院が総合内科を立ち上げた目的の一つに、地域の先生方がご紹介時に迷わないようにということがありました。例えば、ずっと熱が下がらない、体がだるいといった症状だけでも構いません。患者さんが困っておられる時間はできるだけ短いほうがいいですし、早期診断・早期治療につなげられたらと思っています。

私自身は患者さんの訴えをよく聞くことを大切にしています。熱が高かったり、手を動かしづらかったりと、患者さん一人ひとりで治してほしいと思う症状は異なります。なぜその症状が出ているのかを突き詰めて考え、それを補強するために検査をしていきます。患者さんの症状を取ってあげるために努力は惜しみません。

脳神経内科は炎症性疾患に強み
優秀なコメディカルがそろい患者第一の医療を提供

私が当院に入職したのは 2006 年ですが、当時一番驚いたのがコメディカルの優秀さでした。看護師をはじめ、薬剤師や検査技師など「こんな優秀な病院は他にないのでは」と感じた思いは今も変わりません。協力して患者さんを診るのが当たり前という土壌があると感じます。私が立ち上げから関わるリハビリテーション室のスタッフも熱心で、「完全復活」をモットーに、来た時より良い状態で戻っていただくことを最低限の目標に置いています。退院前カンファレンスに同席して、在宅医療を担う先生方などに情報共有することもありますね。

脳神経内科の病気については、以前は難病といわれた神経疾患も、早期治療できればかなり良い状態に持っていけるようになりました。当科では特殊な症例も豊富で、特に炎症性疾患を強みとしています。県内ではまだ少ない軽度認知障害の治療ができることも特徴でしょう。とにかく「わからなければ紹介してください」というのが当科のスタンス。時には患者さんの訴えに対して答えが見つけられないケースもあると思います。何か少しでも引っかかりがあったらぜひご相談ください。

認定看護師のご紹介

手術看護特定認定看護師

医師と協働して安全な手術を行うためのマネジメント能力を有する看護師。手術侵襲や合併症リスクの低減を目的に、手術器具・機器の管理、体温や体位の管理など、術後の回復まで見据えた術中看護を実践する。手術前から患者と関わり、心理的ケアも担う。

患者に優しくアットホームな手術室で
日常生活に復帰するまでを見据えた術中看護を実践

外科病棟にいた経験から、合併症や皮膚損傷などが後に及ぼす影響をイメージできることもあり、術後の経過まで考えて看護にあたっています。手術看護特定認定看護師の役目は手術室の中だけにあるのではなく、術前の患者さんの不安にアプローチしたり、手術に関するドクターからの相談を受けたりすることも大事な役割です。例えば心理面のケアでは、患者さん自身が持つ不安を乗り越える力を、後押しできるようにサポートします。手術に臨む女性患者さんへのこまやかな接し方についても、この資格を持つ男性看護師として心がけているところです。

当院の手術室は「日本一アットホーム」と自慢できるくらい、患者さんに優しい手術室ですので、ぜひ安心してご紹介いただけたらと思います。術中麻酔管理領域の特定看護師の知識も活かし、研修会などでもお役に立てればうれしいです。

手術看護特定認定看護師（B課程）
術中麻酔管理領域パッケージ研修終了
前田 龍弥
（2005年入職）

認知症看護認定看護師

認知症患者のそばに寄り添い、その人の尊厳を大切にしながら、いずれは話せなくなり、うまく思いを伝えられない患者のアドボケイト（代弁者）となる看護師。その人が最後まで地域で住み続けられるように、本人や介護者も含めて支援していく役割を持つ。

認知症患者やその家族に寄り添い
スタッフが元気に、患者が笑顔になれる看護を

いつも心がけるのは、「認知症患者さんが伝えたいことはこれかな」という引き出しをたくさん備えておくこと。その上で、「これだろう」と考えたことが私の思い込みではないか、周囲に確認することを大切にしています。その人を謙虚に受け入れ、してほしくないことはしないことを肝に銘じています。

入院中の認知症患者さんはなぜ病院にいるかわからないので、不安にさせないよう、病床を治療から生活の場に変えなくてはいけません。資格を取得してそうした看護が実践できる仲間を増やせたと思っていますので、今後は県内看護師の底上げにも努めていきたいですね。もともと地域包括ケア病床での経験が長く、後方支援もできますので、患者さんが地域で暮らし続けられるように注力していきます。地域の先生方にはいつも感謝しておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

認知症看護認定看護師
竹迫 香奈
（2007年入職）

ishinkai

鹿児島市医師会病院 医療連携だより『シンカ』 2024年11月秋号
発行／鹿児島市医師会病院
〒890-0064 鹿児島市鴨池新町7番1号　TEL：099-254-1125 ／ FAX：099-259-1694
制作／株式会社ギミック ドクターズ・ファイル編集部

ホームページ
はこちら